小学生の部

1

「天の台所」

落合　由香／著

車が、ガソリンや電気がないと動かないよ

うに、人間の体は食べ物がエネルギーとなり、

食べないと元気が出ないし、体が動かなくな

る。食べ物と言っても、なんでも良いわけで

はない。ずっとポテトチップスとチョコレー

トばかり食べていたらどうなるだろうか。お

やつに食べるのは、おいしくて大好きだけど、

体や頭のためにはバランスの良い食事が必要

だと思う。天がキャベツの千切りを食べて、

あまくておいしいと思ったのは、天の体がキ

ャベツの栄養を必要としていたからだと思う

。

お母さんがいない天の家は、おばあちゃん

が家事をしてくれていた。おばあちゃんの料

理はどれもおいしく、おばあちゃんが料理を

作っていると、天たち兄弟はわくわくした。

そんなおばあちゃんが突然死んでしまった。

20 × 20

最初におばあちゃんがたおれているのを見付けた弟の陽は、その後台所に入ることすらできなくなってしまった。そのくらいおばあちゃんのことが大好きでショックだったのだと思う。主を失った台所も死んでしまった。いつもおいしいにおいがしていた台所に洗い物がたまって、こばえがとんでいる。

そんな状況をすくってくれたのが、おばあちゃんの友達、がみがみうるさいがみババ。がみババの口うるささやきびしさは、おばあちゃんにも負けないくらいの愛情だったのだと後になって分かった。

卵も割れなかった天が、がみババのおかげで料理が好きになり、どんどんじょうずになって、兄弟といっしょに料理コンクールにおうぼするまでになり、私も安心しました。天が作りたかったのは、『たいせつな人たちと食べたいごはん』。

自分がつくったものを食べている人の笑顔を見ると、おなかいっぱいおいしいものを食

20 × 20

べたときみたいな気持ちになる。天や兄弟が料理を通して心も元気になり、料理の力はやっぱり心や体のエネルギーなんだと思った。

小学生の部

2

「絶叫学級　報復ゲームの始まり編」

はのまきみ／著

『美織？僕だよ、わかる？』

「か、一彦・・・・・・・・・・・・・・・？」

声がうわずる。

（なんで、死んだはずの一彦の声が・・・・）

この本は、このような怖い話が4話収録されています。

ぼくはこの話を読んで、何があっても変わらない一彦の美織への思いが一途すぎて、逆に怖いと思いました。そんな美織への思いがあるからこそ、美織が怖い思いをしてしまうわけですが。

実は、一彦には、美織にしか見せていない過激な一面があったのです。この物語の裏には複雑な事情があるのです。

結末が知りたい人は、ぜひ、「絶叫学級　報復ゲームの始まり編」を読んでみてください。そこには、思いがけない結末があなたを

20 × 20

待っているはずです。

20 × 20

小学生の部

3

「つるばら村のくるみさん」

茂市　久美子／著

この本は、開店四年目の三日月屋というパン屋が舞台のお話です。三日月屋には、くるみさんおねこのニボシがいます。いろいろなピンチにあいながら、新しい食材にであっていろいろなパンを作っていきます。

お話の中で心にのこったパンのお話は「節分のパン」です。節分の日に、三日月屋にお

なかをすかせた鬼の子がやってきて、くるみさんが「黒豆あんパン」を食べさせます。その場面を読んで、すごくドキドキしました。わけは、節分の時は、豆を投げられた鬼は、すぐにげていくからです。黒豆あんパンを食べた鬼の子の体に、なにか変な事がおきるのではないかなと思ってドキドキしました。しかし、鬼の子は、節分の夜にたくさんの豆の力で角をぬかなくてはいけなかったのです。それを読んで、鬼の子が黒豆あんパンを食べ

20 × 20

ても、体に悪いことはなにもないとわかってほっとしました。私も黒豆が大好きです。しかし、お正月にしか食べないので、お話に出てきたような黒豆あんパンを食べてみたいなと思いました。

このように「つるばら村のくるみさん」はドキドキしたり、おいしそうなパンに目をかがやかしたりたのしめるお話です。ぜひ読んでみてください。

小学生の部

4

「猫町ふしぎ事件簿

猫神さまはお怒りです」

廣嶋玲子／著

このお話に私が出会ったのは、中央図書館で大人気の「ふしぎな駄菓子屋銭天堂」を探していた時でした。その時は銭天堂は借りられていたので同じ作者の廣嶋玲子さんの作品ということで読んでみる事にしました。

私の大好きな猫が出てくるので読みやすく夢中になって読んでしまいました。ある事件がきっかけに猫神さまに呪いをかけられてしまう主人公の遠矢がその呪いをとくために色々なプレゼントをします。遠矢がそのプレゼントをわたすためのミッションをクリアしていきながら成長していく所に注目して読むとよりおもしろく読めます。

猫が好きな人から苦手な人も楽しく、ドキドキハラハラするファンタジー物語です。ぜひ手にとって遠矢の成長するすがたを見守り

20 × 20

ながら読んでもらいたいです。

20 × 20

小学生の部

5

「カアカアあひるとガアガアからす」

宮下すずか／著

私のしょうかいしたい本は、「カアカアあひるとガアガアからす」です。小学校低学年の子にオススメしたいです。

この本は、おばあちゃんがくれた本で、もらった時、題名を見て、あひるとからすの鳴き声が反対だったので、面白そうだなと思いました。

あひるは、からすが「カアカア」と気持ちよさそうに飛んでいるのを見て、からすの鳴き声をうらやましく思い、からすは、あひるが「ガアガア」と気持ちよさそうに泳いでいるのを見て、あひるの鳴き声をうらやましく思います。そして、おたがい相手の鳴き声を練習して、あひるは「カアカア」からすは「ガアガア」と鳴き声が出せるようになります。そのあひるとからすが、練習した鳴き声を使って、友達を助けたりする物語です。

20 × 20

私がこの本で面白いと思ったところは、あひるとからすが、おたがいの鳴き声をうらやましく思って、鳴き声が出来るように、からすは、話す文章に「、」をつけ、あひるは、文章から「、」をなくして、話す練習をしているところです。

面白いので、ぜひ読んでみて下さい。

20 × 20